

「主題構想と話し合いの組織化」による授業記録— 資料「清作と学」
道徳教育協同推進校研究発表会（昭和51年12月2日）より
足利市立第一中学校

道徳指導案

主題名 他の個性の尊重

資料名 清作と学 項目 5—(1) 学級 2年2組

1. 資料の読みとりとねらい

(1) 資料の読みとり

主人公の考え方や行動について感想を求めるならば

- ア 弟のこともあり、学をいたわってやろうとした清作の気持ちはわかるが、あれほど学がいやがっていたのだから、ほんとうの気持ちをわかってやるべきだった。それなのに、清作は自分の気持ちが受け入れられなくなると、腹を立てたりひどいしうちに出たことは、ずいぶんひどいと思う。
- イ 弟と同じく、足の悪い学がかわいそうになり、やさしく扱ってやったのだ。それなのに反抗的にでられては、腹を立てるのは当然である。清作を非難するのは酷である。
- おそらくこの2つに大別されるであろう。この資料を用いて、生徒の考え方をきたえるとすれば、「後輩である学に親切にしてあげたのに、なぜ反感を持たれてしまったのか。」ということを足場にして、「おれに不満のあろうはずはない。」とか「ようしその気ならしばってやる。」という清作のひとりよがりを批判的に追求して、他人の立場や気持ちの尊重について考えさせるのが、この資料を生かす基本であろう。

(2) ねらいの限定

以上のような資料の読みとりから、ねらいを項目5—(1)に即して、次のように限定した。「相手をあるがままに理解し、ひとそれぞれの立場や気持ちを尊重しようとする態度を養う。」

2. 主題構想の要点

(1) 話し合いのしめくくり方

ねらいを達成するための話し合いの落ちつけ方は、清作が学のためにやっていることが、実は学に反することになってしまい、最後には自分のにぶさを反省することになる。これは学のためにしているのだという自負が、かえって学の気持ちを察してやれるだけの、ゆとりを失ってしまったのだということを、しっかり確認させたい。

(2) 初発の感想

主人公の考え方や行動に注目させて感想を求めるならば、清作は弟のこともあって親切にしてあげたのだ。それなのに反抗的に出られては清作のほうがかわいそうである。という清作弁護と、学はいやがっているのだから、その気持ちを察してやるべきで、いくら高田に言われたからといって、学につらく当たり、自分勝手なことをしたりするのはよくない。という清作批判に分かれるものと思われる。

(3) 共通問題意識の設定

キャブテンである清作が、後輩の学に親切にしてあげたのに、なぜ反感を持たれてしまったのだろうか。このような結果を招いた清作の考え方や行動のどこに問題点があったのだろうか。

(4) 展開の前段

清作の学に対する思いやりの心に、学は反抗するばかりか、清作のきらっている高田に不満をぶちまけている。このことは清作よりも、むしろ学の方が反省すべきであるという弁護論に対して、批判側の生徒は、清作の行為は思いやりがなく、弱者に対するあわれみであり、学が高田に打ちあけたのは、自分にやさしくしてくれる清作の気持ちがよくわかるだけに言いにくかったのだ。それよりも、「おかしい」と思いながら、ほんとうの学の気持ちを察してやれなかつたのは清作が悪いと批判してくるであろう。

(5) 展開の後段

清作批判に転じるために、清作の生き方の中で、学の反抗的な態度を「おかしい」と思いながら、「おれに不満のあろうはずがない。」とおしつけの親切を改めないで、しかも高田からたしなめられたさい、素直に受け入れられれば、かえっていじめにかかっている点に注目させ、清作の先き方の足らなかった点をしっかり突きとめさせるようにする。

(6) 配慮事項

この資料の主人公の考え方や行動についての感想を事前にまとめておく。

3. 展開の大要

	教師の発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
初 発 の 感 想	<ul style="list-style-type: none">○あらすじを確認する。○清作のとった行動や考え方について、どんなことを感じたか。	<ul style="list-style-type: none">○清作は、弟のこともあって学をいたわってやったことはわかるが、学のことが自分の思い通りにならないからと腹を立て、ひどい仕打ちにまでたのはあまりにも自分勝手すぎる○自分の弟のことを思えばこそ、学に親切にしてあげたのに、その学から変な態度に出られたのでは、清作ならずとも、おこるのは当然である。だから清作を非難するのは、かわいそうである。	<ul style="list-style-type: none">○清作に対する批判論、弁護論がかなり出つくすまで話し合われる。
	共通問題意識の設定		
	キャブテンである清作が後輩の学に親切にしてあげたのに、なぜ反感を持たれてしまったのか。このような結果を招いた清作の考え方や行動のどこに問題点があったのだろうか。		

主 人	<u>第1発問</u>	<ul style="list-style-type: none"> ○清作は学に対して、どんな態度をとっていたのか、それは、どのような考えがあったからか。そうした清作の考え方や行動をどう思うか。 ○キャブテンとして、からだの不自由な学を、かわいそうだと思い、やさしくかばう態度は立派である。 ○学をかばう気持ちはわかるが、あわれみとか受けとれないふしもある。相手の学が清作の親切をいやがっているのがそれで、そういう気持ちを察してやるべきであった。それがわからずには、同じ行動をくり返している清作はひとりよがりとしか言いようがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○初発の感想での弁護論ができるだけ生かすように努める。
	<u>第2発問</u>	<ul style="list-style-type: none"> ○清作の親切がいやであれば、学の方こそ自分の考え方をきちんと伝えるべきである。それなのに、学はどういう態度をとったのか、悪いのは、学の方ではないのか。 ○学は清作の好意がわかっていないながら、かなり強く反抗的な態度をとり、さらに清作がきらっている高田に不満を打ちあけた。これではいくら清作でも、がまんできなかつたのは当然である。 ○学にしてみれば、清作はキャブテンであり先輩でもある。だから言いにくかったのだろう。高田に不満を打ちあけた気持ちもよくわかる。それよりも、二度までも学の態度を「おかしい。」と思いつながら、その真意がわからず、高田から学の気持ちが伝えられるとカッとなり、学につらく当たつた清作の方が悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学の反抗的な態度や、高田への伝言などを引き出し、清作弁護ができやすいようにする。
追 求	<u>第3発問</u>	<ul style="list-style-type: none"> ○高田から、学の気持ちを知らされたとき、なぜ清作は素直に聞き入れられなかつたのか。そこに見られる清作の生き方の問題点は何であったか。 ○自分よりも技術的に劣る高田から忠告されたので、腹を立ててしまった。それは清作が自分自身のことしか考えず、相手の言い分を開き入れようとする気持ちが欠けていたからである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○弁護側の同意を重ねてとりつける。 ○自分の好き嫌いにとらわれている清作に気づかせる。
	<u>第4発問</u>	<ul style="list-style-type: none"> 学の態度が「おかしい」と思ひながら、「おれに不満のあるうはずがない」と押しつけの親切を改めようと ○清作の学を親切に扱い、いたわってやることに自己満足し、学の気持ちなどは考えに入れようとしない、ひとりよがりの欠点がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一方的に自分を押しつけようとする清作の態度をしっかりとつかませる。

	しなかったのは、清作の生き方のどういう欠点があらわれているか。	
	<p><u>第5発問</u></p> <p>○では、高田に対する態度と学に対する態度との両者に共通する清作の生き方の問題点はいったい何だろうか。</p>	<p>○相手はそれぞれ、自分とはちがった立場にあり、考え方や希望も当然異なるはずなのに、自分の一方的な押しつけで、相手をきらい、相手に好意の押し売りをした、これが清作の生き方の問題点である。</p> <p>○このような欠点は、だれしもありがちで、なかなか気づかないことを確かめたい。</p>
まとめ	<p>○話し合いの中から何を学びとったか。</p>	<p>○強く弁護していた生徒の発言を求める。</p>

〈清作と学〉

「1, 2年は素振！3年は乱打！」

部員がそろったのを目で確かめると、卓球部のキャプテンの清作は大きな声で指示をした。

思い思いに準備運動をしていた部員は、それぞれの場所に移動して練習を始めた。全員が練習にはいるのを見届けると、清作は素振りをしている1年生の後ろに回った。

「西本！腰がはいっていない！」「竹田！腕が曲がりすぎ！」「北川！横見するな！」

真剣な顔つきでラケットを振る1年生に、清作のきびしい声が飛んだ。

〈だいぶ形もきまってきたな。〉ひとりひとりのフォームを点検しながらも、清作は、さっきから不自然なフォームでラケットを振る山田学の後ろ姿に何度も目をやっていた。

山田学は、この4月に入部してきた1年生である。幼いころかかった小児マヒのために左足が細く、いつも軽いびっこをひいて歩いていた。ほかの1年生のようにガヤガヤ騒ぐこともなく、たまにニコリとすることはあっても、黙っているときのほうが多い生徒であった。入部してきた1年生の中にその学のいることを認めたとき、清作は、交通事故に会って足が不自由になった弟を思った。

学はほとんど練習を休んだことがなかった。練習ぶりも熱心であった。しかし、その技術は、お世辞にもじょうずだとはいえないかった。きびしいキャプテンと評判の清作も、そんな学に対してだけはきびしくすることはできなかった。

〈無理もないことだ。かばってやらなくては---。〉

清作はそれも自分のつとめだと思って、できるだけやさしく接してきたのである。

清作は、左足をかばうようにしてラケットを振る学の後ろ姿をしばらく見つめていた。突っ立ったような腰、ラケットを振るたびに傾く肩、ラケットの返しも甘い。清作はそっと学に近づいた。

「返しが甘いぞ。こうかぶせるのだ。」

清作は後ろから、ラケットを持った手首を握ってやった。首すじが汗ばんでいる。

「えらければ休んだっていいんだぞ。」

しかし学は、おこったような顔で清作の手を振り払うと、ものも言わずにラケットを振り続けた。その反抗的とも思えるそぶりに、清作はきょうもひっかかるものを感じた。

＜おかしい、やはり何かある。＞

清作は数日前のことと思い浮かべた。

その日、卓球部では、練習後のグランド 周に代えて、学校はずれの一本松まで走ることに決まった。＜片道 500 メートルはある。＞そのとき清作は学のことが気にかかった。学には無理だと思った。

「待っていたっていいんだぞ。」

近づいてささやいた清作に、学はブイと顔をそむけるようにしてみんなの列の中にはいっていった。

＜何かあったな。＞そのときも、清作は何かひっかかるものを感じていたのである。

＜おかしい、何かある。＞自分の手を振り払った学の後ろ姿を見ながら、清作はやさしくしてきた自分をふり返った。そして、

＜おれに不満のあろうはずはない。＞

と思った。清作には、それが学の足の悪いせいだとしか考えられなかった。そして、いっそう親切にしてやらなければと思った。

翌日の昼休み、清作は、3年の部員の高田から思いもかけぬことを言われた。

「きのう学に打ち明けられたんだが……。もう少しほうっておいてやれよ。学はあまりかまってほしくないんだとよ。」

意外なことばであった。冷静をよそおって聞いてはいるものの、清作の心は穏やかではなかった。

＜かまってほしくないだって。人の気持ちも知らないで。＞

清作は、自分の思いやりが迷惑としてしか受けとられていないことが情けなかった。情けないというより腹立たしかった。

＜しかし、それはまだがまんもできる。だが、これだけしてきてやったこのおれをさしおいて、人もあろうに高田なんぞに打ち明けるとは。＞

清作は、高田にたしなめられたことにがまんできなかった。サボリで身勝手で、ふだん問題にもしていなかった高田に注意された自分が、ひどくみじめに思えた。キャプテンとしてのプライドを学に傷つけられたと思った。

＜なめやがって。ようし、その気ならしぶってやる。＞

清作はくちびるをかんだ。

その日の放課後、部員に対する清作の態度はいつも以上にきびしかった。清作は、わざと学を重視するような態度をとった。

練習を終わってグランドに集まつた部員に清作は命じた。

「きょうは一本松まで走る！列を乱すな！」

＜列を乱すな。＞に力を入れて叫ぶと、清作は先頭に立った。いつものように速度をゆるめようとし

なかった。

一本松を折り返したところで、足ぶみしながら清作は列をやりすごした。50メートル以上も遅れて走ってきた学をにらみつけるようにして、清作はどなりつけた。

「山田！遅い！追いつけ！」

「はいっ。」

思いもかけぬはっきりした返事が返ってきた。

「おれにつけ！」

「はいっ。」

そのとき 清作には学の表情がいつになく明るいように感じられた。清作は、これでもかと言わんばかりのスピードで走り始めた。

学校に帰りついで呼吸を整えていた学が、清作に近寄ってきて言った。

「ありがとうございました。」

清作は＜おや。＞と思った。予想もしないことばであった。

「こたえたか。」

「はい。」

学がニコッと笑った。その目を見て清作はハッとした。清作は、学の気持ちが初めてわかったと思った。そして、学のほんとうの気持ちがつかめていなかつた自分が情けなかった。

「負けるな。がんばれよ。」

清作は学の肩をポンとたたいた。

「はいっ。」

学の明るい返事が返ってきた。

授業記録

1 T きょうは「清作と学」という資料ですね。あらすじの確認をしょう。全員で言えるところはみんなで答えて下さい。

まず主人公は（「清作」！全員が声をそろえて）この清作と一番関係の深い人は（全員「学」）。それからもう1人いるでしょう関係の深い人が（全員「高田」）。だいたいこの3名にしぼってみようと思います。清作と高田との関係は（全員「同級生」）。清作と学との関係は（全員「先輩と後輩」）。3人とも共通している点は何か（全員「卓球部」）。学は新入部員で清作は（全員「キャプテン」）。練習中の清作はどんなキャプテンか（全員「きびしい。」）このきびしいキャプテンが、学にどういう態度をとったか（全員「やさしい」）。なぜ、やさしくしたのか（「足が悪いから。」）やさしくしてもらった学は、よろこんだかい。（「反抗した、いやがった。」）その反感を清作に言ったか（全員「言わない。」）だれに言った（全員「高田。」）高田は清作に伝えたね、清作はいい気持ちになったかい（全員「ならない。」）それを聞いて清作は何をした。（「しごきをした。」）そうしたら学はどうした。（「ありがとう」）結局清作は最後になって、「ありがとう。」と言われどうした。「……」

- 2.勅使河原 元気のいい返事をした。明るい気持ちになった。
- 3.T このへんで、何か感じたものがあった。別な言いかたをすれば「反省」につながってくるものと思う。これが今日の清作と学のあらすじですね。これについて、この時間勉強していったいと思います。
- 4.T では、これについて感想を言ってみてください。
- 5.羽生 私は弁護です。それは清作が学に対して同情しているということは、清作にやさしい気持ちがあったからで、学の方はおせっかいだという気持ちで受けとっていますが、私は清作が正しいと思います。清作は最後には反省してるのだけど、人間は心のくいちがいというのがあるのだから、清作の態度は正しいと思います。
- 6.T 羽生さんの、そういう意見に賛成の人は手を上げてください。かなりいますね。松本君。
- 7.松本 やっぱり弁護で、学は相手がキャプテンだったから言いづらかったのかも知れないが、清作に区別してもらうのがいやなら、はじめから高田なんかに言わないで……そんなふうに遠まわしに言うなんてずるいし、卑きょうだと思う。
- 8.松村 普通、からだの不自由な人がチームの中にいても、ほったらかして、かまわないのだけれど清作は不自由なことをちゃんとわきまえて、学なりにしてやったのだから正しいと思う。
- 9.T 今、松本、松村ら3名の人は弁護ですよね、そうしゃあないという人は、
- 10.小西 私は批判で、親切でやったことが、その人に対して迷惑になるということがよくあるのですが、この場合、清作はキャプテンなのだから、学の気持ちを早く理解してあげるべきだったと思う。
- 11.小山 私も批判です。この清作は学のためと思ってやったのだと思うのですけど、もう少し早く学が「あわれみ」として受けとっている気持ちを、わかってやればよかった。それから高田に注意されたとき、「これだけ親切にしてやってる。」とか「プライドを傷つけられた。」とか、考えないで、もう少し広い心で学の気持ちを、わかってやればよかった。
- 12.T なるほど、広い心ね、じゃあ原島君はどう。
- 13.原島 ボクは清作のとった態度は悪いと思う。学にだけやさしくしたのは悪い。学は自分のからだの不自由なことを言ってもいないのに、やさしくしたから学に反抗されたのだ。だれだって特別扱いされるのはいやなんだから……。
- 14.T 特別扱いか、批判だね。岩下君はどう？
- 15.岩下 ボクは、いくら足が悪くても、いったん入部したからには、みんなと同じにやらせるべきだ。
- 16.T とにかく批判の方なんだな、このように、清作が悪いんだ、批判だ、と言ってる人たちに対して、弁護の方にかた入れする人たちもいるんじゃないかな。
- 17.斎藤 ボクは、清作は善意でやったのだからしかたないと思います。それは学の、普通の人と同じように扱ってもらいたいという気持ちちは、わかるんですが、やはり清作は善意の心でやったのだから、やっぱししかたないと思う。
- 18.T しかたないか、阿部君はこれどう思う。
- 19.阿部 ボクは、斎藤君の意見に反対で、自分の弟も交通事故でからだが悪いのだから、自分の身近

かなところにそういう人がいたのだから、早く学の気持ちを見破るべきだった。

20 T さあ斎藤君、言われたよ、どうですか？。

21.斎藤 見破るなんて言ったって、神様じゃないんだから、人の心なんかそんなスパスパわかるわけない。

22.T この2人のやりとりを聞いて、他の人どうですか。ハイ、原田さん。

23.原田 私は、五体満足でない人は、部活に入ることが難理だと思うんですけど、学はそれを押し切って卓球部に入部した。それには学なりに夢や希望があったと思うんです。それをぶちこわしたわけだから清作は悪いと思います。それから、学くらいの人ならば感情が普通の人より読みとりやすいと思うので、そのくらいのことができなくちゃあキャプテンとして失格です。

24.T なるほど、読みとりができないといけないか、ハイ斎藤。

25.斎藤 キャプテンなんだからといって人間だから、そうはいかないです。

26.松本 清作は自分の考えが裏目に出ただけなので、キャプテンとしてはちゃんとやったと思う。

27.T どう原田さん

28.原田 いくら自分で学の心を読み取ったと思っても、それが裏目ではね。

29.T 安藤さんの感想は

30.安藤 からだに不自由ない人と、ある人ではどうしても気持ちがくいちがうので、そのところは清作としても見破れなかつたのはしかたなかつた。

31.山室 ボクは意見が半分に分かれてしまったのですが、清作は短気なために、高田にキャプテンとしてプライドを傷つけられたときなど、カッとなり学の気持ちをよく考えられなかつた。でも短気ならしかたないと思います。

32.織原 ボクは批判です。清作は、はじめ学に対してやさしいところがあつて、いい人だと思ったのですが、高田に言わされたときに、ちゃんと学と話し合えばよかつたのですが、すぐ行動にうつした。それがいい方に出たからよかつたものの、もし悪い面が出たとしたら、すごいことになつたので、もっと冷静に話し合わなければいけないと思います。

33.T 悪い方に出たら大変だったと言うんだね、さあ松村君、織原君に言われたよ。

34.松村 だけどさっき松本も言ったのですけど、これははじめから清作はこの考へでいいんだと思ってやつたことなんで、他人に何と言われようと自分は正しいんだからいいと思います。

35.T ハイ阿部君

36.阿部 かまわないというけど、そのへんをかまわなかつたら人間どうしの何ていうか、生きていくうえにとっても悪いことなんで、そのへんは心がまえなんかで、ちゃんとかまつた方がいいと思う。

37.松本 やっぱり清作も人間なんだから、おこりたい時もあるし、自分がキャプテンだというプライドを傷つけられたとなれば、そういうこともしかたないと思う。

38.T またプライドが出ましたね、では三田君

39.三田 清作は卓球部のチームをあつかる身だから、学にやさしくするのは当然だけれど、学はみんなにおいつこうと自分なりに汗をかいて努力しているのだから、やはり早く気がつくべきだ。

- 40.T 石井さんはこの話をきいてどう思いますか。
- 41.石井 三田君の意見を聞いていると、もっと学の気持ちを理解すべきだと言うのですが、私の場合はそれとはちがって、早いうちに気持ちを理解するといつても、普通の人なら足が悪ければ、部活に入らないし、学の場合にはやる気があったといつても、一人そういう人がいればキャプテンは心配するのは当然で、清作の考えはまちがってないと思います。
- 42.尾崎 さっき原田さんはキャプテンとして失格だと言ったのですが、キャプテンだったから学に対して親切にしてやったのだから、学のとった態度はいけないと思う。
- 43.T どう、原田さん何か言いたげですね。
- 44.原田 キャプテンだったら自分の持ってるプライドなんか捨てるものだと思います。自分にプライドがあったらチームをまとめることができないし、それに学が高田に言ったことは私たちも経験していることだし直接先輩に言えることではないと思います。
- 45.T 松本君どう、チームがまとまらないことについて
- 46.松本 でも、やっぱり
- 47.T かなりたくさん話しが出てきたけど、このさいつけたしたいという人いますか。ありませんか、えーと、羽生さん、こちらの弁護側の言い分で、学こそ悪いんだというこれらの意見に対して、あなたも絶対悪いと言い切れますか、さっきから話しを聞いていて清作の方も少しぐらいはまずいところがあると思いますか、それとも絶対ないかね、どう？
- 48.羽生 いいえ、少しはあります。
- 49.T 松村君はどうです。
- 50.松村 あると思います。
- 51.T えーとまあ最後には、こうして清作は反省をしているわけだが、話しのマトをしぼるために「親切にしてあげたのに、なぜ反省しなければならなかったのか。」このように反省しなければならなくなってしまった清作のとった態度のどこに問題があったのか、もう少し深く考えてみようと思う。こんなところを頭に入れておいて下さい。いいですね、では斎藤君、もう一度。
- 52.斎藤 やっぱりボクは親切にしてやってるのに、反感をもたれたらおこるのは当然だと思う。
- 53.T なるほど、野本さんはどうです。
- 54.野本 私は清作を弁護する方で、清作はキャプテンとして、学をいたわってあげたのだから、学も普通の人と同じように扱われたいという気持ちはわかるんですけど、清作のそういういたわりの気持ちをすなおに受けとればいいと思います。
- 55.T あゝ、なるほどね「すなおに」ね。確かにそうですよね。先生も考えるんですけど、先生のうちに足の悪い弟がいたら、この文は単にスラリと書いてあるけど、ほんとうに足の悪い弟がいたら、そういう条件で新入部員が入ってきたら ---- そう考えるとね ---- 清作のとった態度どうでしょうね。小西さんどうです、それでもやっぱりー？
- 56.小西 それでもやっぱり、清作はキャプテンだから、この場合、清作が眞実でやったことが、かえって学を傷つけたのだから、やっぱり悪いと思う。
- 57.T 原田さんどうです、あんたはかなり強い批判ですけど---。

- 58.原田 だけど清作の弟のはあいと、学のはあいはやっぱりちがうから。
- 59.T 「ちがうから」……そう割り切れますか、原島君もそう割り切れますか。
- 60.原島 割り切れないと思う。
- 61.T じゃあ
- 62.原島 あのう、親切にしてやったのは清作は少しいいと思います。それで学が、それに反抗した気持ちもわかるのですが、反抗しない方がよかったです。
- 63.T 松村君、もう少しすなおに受けとるべきだというあたりどうです。はっきり言い切れますか
- 64.松村 ハイ。
- 65.T 松本君は。
- 66.松本 やっぱりそうです。
- 67.T そういうふうに、こちらの連中は、素直に受けとるべきじゃないかと言ってるのですが、小山さんどうです、足の悪い人がいるんですよ、ちょっと条件がちがうんですよ。
- 68.小山 でも、なんか清作という人は、親切にしてやったことが、清作自身のやさしさからきているんだと思うのですが、親切にしてやったということを恩にきせてるようだ、「このおれをさしあいで高田なんかに打ち明けてる」とか言って。。。。。
- 69.T というわけなんですけど、斎藤君。
- 70.斎藤 ボクは素直にうけとるべきだというのはわかるんですけど、学はそれがどうしてもいやだったら、清作は真正面から言えばいいと思う。
- 71.T もう一度出てきたよ、これ考えてみよう。自分から言うべきだというんだね。いやなんでしょう、いやだったら男の世界でしょう、しかも好きで入った道だからいやだったら男らしく、斎藤君の言うとおりですよね。しかもね先生が思うのは、学は清作がいっしょうけんめい親切にしてあげてる気持ちは、いやというほどわかっているはずだよね、それで反感もつていいんだったら……言うべきだと思うね、いくらでも言うチャンスはあったはずだよ、阿部君はどう思う。
- 72.阿部 それはやっぱり、親切にしてもらったのは学だし、それに高田という人は全く関係ないわけだから、そういう卑きょうなまねはしない方が。。。
- 73.T さあ、原田さんどうです。
- 74.原田 しかし、やっぱり学だって直接清作には言えないと思うんです。
- 75.T なんで。
- 76.原田 やっぱり、先輩、後輩の中だから。
- 77.T そんなに言えないんですか。（…………ざわめき）。
- 78.原田 それで学からみれば、高田という先輩はいろんなことを言える先輩だから相談したのだと思う。
- 79.T じゃあ原田さん、この先輩はきびしいけど、高田はどんな先輩だったっけ。
- 80.原田 と……。さぼりやで身勝手。
- 81.T だからその方が言いやすいのですか。

- 82.原田 じゃあなくて、そういうことは関係なくて、学自身のてんで高田という先輩の存在が大きかったからだと思います。
- 83.安藤 私は原田さんの意見とちがって、先輩、後輩の仲だから言えないのじゃあなくて、学としては清作のやさしい気持ちがわかっていたから、直接言えなくて高田に言ったのだと思います。
- 84.T やさしい気持ちだからこそ言えないのだね---。もうちょっとがう気持ちない？ 先輩だから言えないか、おっかないんだなあ、川島さんはどう？
- 85.川島 私は安藤さんと同じ気持ちで、やっぱりやさしくしてもらったのに、本人にめいわくだんて言いづらいと思います。
- 86.T こわいということよりも、言いづらい方ですね。松本君はどうです。
- 87.松本 やっぱり言うことはできないし、学はしかたなしに高田に言ったのだと思う。
- 88.岩下 ボクも、やっぱり先輩と後輩では位がちがっちゃうし、キャプテンとなると部を支えている人だし、なんとなく話しづらい。
- 89.T 尾崎さんはどうですか。
- 90.尾崎 やっぱり本当にかまってほしくなかったら、学は清作にじかに言ったと思う。高田に打ち明けたのも、学も少しばまってもらいたかったからだと思う。
- 91.T なるほど、そういう裏も考えているんだね、ということはやっぱり清作に言うよりも、高田に言いやすいんじゃないかな---。さっき原田さんも言ってたように。----もうちょっと話しを進めてみよう、いっしょうけんめい清作は親切にしてやった。しかも清作はまじめな人だ、それにひきかえ高田はズボラで通っている、なのに学は高田に打ち明けてしまっている。こういう学の態度をどう思いますか。原田さん、たとえばさ、恩をあだで返すことがあるけど、あれに以てると思うけど、どう？
- 92.原田 ちがうと思います。学は性格が悪い人ではないと思うし、そんなことをする人ではない。
- 93.松村 親切にしてもらったという気持ちがあったから、それを振り切っちゃあ悪いという気持ちもある人じゃないですか。
- 94.T 学にしてみると、清作にかなり言いづらい面もいくつか条件としてあるんじゃないですか。それから、高田に打ち明けざるを得ない条件もいくつかあるんじゃないかな。こういうことが話し合いの中に多く出てきているということは、清作はすばらしい人だと言っていた羽生さんたちの意見もわかるが、どこか清作にも問題があったような気もするね。
次にね、高田が清作に打ち明けたことで、清作は別にたいしたことじゃないんだったら、「あゝ、そうか。」と聞き入れてもいいんじゃないかな。高田から忠告めいたことを言われたとき、清作はどんな気持ちでした、いい気持ちがしたかい。小川君、
- 95.小川 清作は高田からたしなめられたような気がした。
- 96.T 「たしなめられた」、ですね。それでね、これは高田自身の問題じゃないと思うんです。ただ学の気持ちを伝えただけでしょう、なのに高田に対してそういうおかしな気持ちになっている、変だねえ。
- 97.斎藤 やっぱし、高田は身勝手で、練習にも来ないし、キャプテンの言うことも聞いてくれない、

こんなやつに言われるはずじゃないと思っていたから。

98.T 原田さん、今の考え方ですか。

99.原田 私はちがう考え方で、清作は自分を、えらく思っているから高田に対して反対してるんです。

100.松村 斎藤君と同じで、高田は同級生でも、さぼってるやつだから、清作はキャプテンでもあるしそういう気持ちになったんだと思う。

101.T じゃあ松村君、高田が清作と同じような有能な3年生だったらどう、そういう人に清作は言われたとしたら……。

102.松村…………… そうだったら学は高田に言わないと思います。

103.T では、もし言ったとしたら。

104.松村 「……………」

105.T ハイ、斎藤君、そのへんのところどうですか。

106.斎藤 ボクは、有能な人だったら、その時点で清作はやめると思います。

107.T じゃあ、清作は人によって変っちゃうのかい。

108.斎藤 やっぱし、キャプテンだから……………?

109.T 斎藤君、さっき原田さんが言ったことはわかってるね。なんか清作の気持ちは、場合によつては一貫してないようにも思えるがね……。高田のことだけど、普段の練習は練習でしょう、ズボラでも、これとは別問題と思うがね、どうです。ハイ、尾崎さん。

110.尾崎 清作もさぼりやだったら、高田に対して反感を持たなかったかもしれないが、まじめだったから反感をもった。

111.T さきほどからプライドとかキャプテンとか出てるけど、かなりこだわっているような気もするんですけど………松本君どうです？ 清作は高田から忠告めいたことを言われたが、もう少し素直に聞き入れてもいいんじゃないかなと思うんだがね、なにも高田に当たることないんじゃないかな。

112.松本 実さいの立場になると、やっぱりそうなっちゃうと思います。

113.原田 もし、高田が部活にも熱心であっても、清作は何らかの文句をつけて、学のことを恨むと思います。清作はいつも部活の中では一番えらい人だからという感じで、ほんとうに自分を神様のように思っているから、高田にそういう態度をとったのだと思います。

114.T かなり天ぐになってるんじゃないかな、自分勝手なところがみうけられるんじゃないかな、ということだね、もう一つ、それではさ、清作は変なこと言ったよね、「学に手をふりほどかれたとき」。とか、「おかしい、おかしい」と思ってるわけだね、その後も、高田に言われたとき何か思ったよね、何だっけそれは、川島さん。

115.川島 親切にしてやったのに………。

116.T うん、「なめやがって、ようし、しほってやれ」、なんてかっこいいこと言ったよね。これかなりきびしい言い方だね、それと、自分がいっしょうけんめい親切にしてやってるのに「あんなことを考えやがって」、なんて思うのは、清作はどんな人だろうね、小西さん。

117.小西 相手が考えていることを考えてあげない人。

- 118.T 阿部君、清作は自分が親切にしてあげることが、いいことだと思ってるのかな、悪いことだと思ってるのかな。
- 119.阿部 最初は良いことだと思ってやった、しかし高田に言われてはじめて悪いことやっちゃったんだなあと反省してる。
- 120.T 清作は、高田の問題じゃないように、高田のことを変に思ったり、いっしょくけんめい親切にしてやったのに、学のやろう高田につげ口しやがって、ようしそれならしごいてやろう、と思ったりした。これらはどこか似てないかね。
- 121.石井 清作はキャプテンとしてのプライドがあったから、忠告を受けても素直に聞き入れられなかつた。
- 122.木村 清作は、高田や学に対してかなり強い態度に出てしまった。カッとなったところがよくない。
- 123.T それでは最後に清作について、……確かに学に対していっしょくけんめい親切にしてあげたのに、学には反感を持たれてしまった。ここまでではだれにもよくあることでしかたないと思う。でももう一つのミスをしている。確かに清作は人間的に同情している点、とくに足の悪い後輩をかばう心などは、眞のやさしさがなければできないことですね、これはわかるけどね、さきほど、織原君が言ったこと、「これがね、結果的には「ありがとう」。になったけれど、ありがとうにならなかつたら、どうなっちゃうのだろう、このへんも、良く考えてみてくれないか、………自分を忘れてカーッとなっちゃったんですから、これも、もう一つの失態だと思うんですよ。こられて、おさえられなかつたかと思います。
- ここで先生の気持ちを言いたいね。みんなの中にも仲の良い友だちがいると思うが、仲が良いければ良いほど、自分のしていることが相手に全て良いこととして受け取られていると思い込んでしまう、だから、自分の親切は絶対となる、ところが相手には相手の考え方や、希望などがあり、時には、わざわざしいこともある、このようなときには、いくら仲の良い友だちでも心のくいちがいが生じてしまい、「あんなに仲が良かったのにどうしたのかしら」。という結果になることがしばしばある、このような例は、女の子によくあることですね。ひとをあるがままに理解するということは大変むずかしいことです、大人の先生たちにも、このようなことでよく誤解をまねいてしまうことがあります、むずかしいですが、そこが「人」の良いところでもあるんじゃないですか。今日の授業の中で、何かつかんでくれて、今後に役立ててくれればと思います。

(指導者 南木 紀)

評

この授業記録にみられる特色は、生徒各自が道徳意識変容の契機を徐々につかんでいく過程が鮮やかに示されていることである。すなわち、一人一人の生徒が、自らの生活経験の中からつかんできた自分自身の考え方を、清作や学を通して、学習集団の前に率直にひれきし合い、多様な人間の生き方、考え方方にふれながら、変容の契機を見発見しているといえよう。

このことは、生徒の立場からみるならば、清作および学という二人の人物の生き方、考え方方に触発され——身につまされて——自らの生き方、考え方を極めて具体的に焦点化して、ひれきし合ったことであり、教師の立場からみるならば、生徒一人一人の考え方を大事にしながら、多様な考え方を引き出し、話し合いの場を無理なく構成できたということであろう。

この授業の成功の原因はいくつか考えられるが、特に、授業者が、一人一人の生徒を、実によく見て、よく理解しているということをあげておきたい。これは、教師と生徒との温かい人間関係の深まりを基調とした日常の学級経営の確かさを示すものであるが、このことこそまさしく、より深い資料解釈と指導展開を可能にした基本条件であると思われるからである。

なお、本校は昭和50・51年度文部省指定道徳教育協同推進校として、すぐれた成果をあげているが、特に、全職員による、内容項目別資料集「話し合いの組織化をはかるための資料の選定と、それにともなう共通問題意識の設定」の編集・作成され、生徒の実態をふまえた資料の選定、解釈等を深められ、道徳指導の質的向上をはかられたことを、あわせてお知らせしたい。